

# 開基110年。 市制施行40年。 留萌港開港50年。

明治10年1月に現在の内港出口附近に、戸長役場を設置してから110年。

昭和22年10月に留萌町から留萌市になってから40年。その当時の人口30057人、世帯数6075世帯。道内で12番目の市として誕生。

昭和11年2月に留萌港が国際貿易港に指定されて留萌の基幹産業をささえる港となつてから50年。

この大きな節目の年を迎え市では記念事業を行うことになり、この事業に使うためのシンボルマーク・記念標語を5月から市民に募集していましたが、シンボルマークには24作品、記念標語には72作品の応募がありました。そこで、6月22日に行われた審査会の結果、次の作品に決まりました。



シンボルマーク

田中聖子  
さん(22才)  
高砂町

私のシンボルマークが選ばれうれしいです。

全体のデザインは海と太陽を表わしています。海と太陽が調和してよりいっそう留萌市が繁栄しつづけるよう思いをこめて書きました。



留萌市開基 110年

5月から市民に呼びかけで募集していましたが、シンボルマーク・記念標語が決まりました。



記念標語

加我周二  
さん64才  
錦町1丁目

私の標語が選ばれたと聞いて、ただビックリ。

55年間、留萌に住んでいますが、標語には、留萌が21世紀にむけて、もっと発展してほしいという私の思いをこめました。

## 今日さわやかに110年、 明日に伸びる輝く留萌

### 市民施設見学会

## 目で見る留萌の姿

市では、発展する私たちのマチを自分の目で見てもらおうと《市民施設見学会》を開催します。

この機会にあなたも参加してみませんか。市は、住みよいマチをめざして生活に密着した事業を推めています。この事業に使うお金の一部は皆さんが納められた税金です。その税が、どこに、どう使



▲昨年の行われた施設見学会撮影

われているかを、また私たちのマチ、留萌の市勢の発展する姿を、あなた自身の目で確認していただくために、市民施設見学会を開催します。8月上旬には、夏休み中の

小・中学生または親子を、9月上旬には一般の方を対象に実施します。  
小・中学生には、夏休みの社会勉強の一つとして参加してみてもどうでしょうか。  
■夏休み親子見学会  
8月5・6・7日、親子または小(4年生以上)・中学生を対象で、定員は1回20名  
■募集期間  
親子見学会については、7月31日まで、一般見学会については8月31日まで、ただしいずれの日も定員になり次第締め切らせていただきます。  
■申し込み方法  
ハガキまたは電話で市総務部秘書企画課広報係(☎②1801番内線221番)へ申し込んでください。  
■見学コース  
浜中運動公園、千景台展望施設、神居岩総合公園外13カ所、10時から3時頃まで見学します。  
■昼食については  
市が準備いたします。親子見学会は弁当。一般見学会については学校給食の試食をさせていただきます。  
また参加者全員で記念写真を撮りお渡しいたします。

## 献血で守る 尊い命

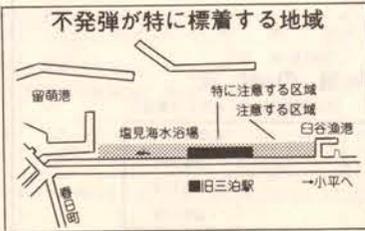
夏に、輸血に必要な血液が不足になりがちになることは、案外知られていないようです。夏は、旅行や帰省をする人が増えるためでしょうか、献血する人が減るといわれます。それにも増して、夏の暑さが「献血をしよう」とする皆さんの善意を喪失させてしまうのかもしれない。

●7月は「愛の血液助け合い運動」です  
夏だからといって病人やけが人が減るわけではありません。献血をして尊い命を助けたといううあなたちの善意を血液が不足しがちな夏にも生かしてほしいものです。



## 発見したらすぐ警察に連絡を

海で遊ぶ季節がやってきました。これから海水浴場に出かける機会も多くなると思いますが、「留萌港手りゅう弾等爆発物処理対策協議会」では、塩見海水浴場周辺に標着する手りゅう弾などに十分注意するよう呼びかけています。この不発弾は、終戦後、旧日本軍が留萌沖に投棄したものでその量などは不明ですが、月に2個程度発見されています。発見したときは手を触れずに留萌警察署刑事防犯課(☎②2151)または塩見町白鳥忠雄(☎②3756)までご連絡ください。



## シリーズ⑦ 地場産品の紹介

全道販売量の25%を占めて、合板一筋に製造している、市内明元町6丁目二ヘイ合板KKの製品「合板」について紹介します。

昭和35年二瓶木材留萌製材工場開設以来、数多くの製品をつくりましたが昭和61年12月社名変更により二ヘイ合板KKとなつてから合板一筋に製造を続けています。  
合板は、3呎×6呎板(ドアーの大きさ)単板を5枚重ねたもので、コンクリート型枠として使用されています。また今年3月、北海道優良道産品(鶴のマーク)として2回目の指定を受け、全道の建設業者からもすぐれた製品として評価をえています。  
合板の材料となる原木(ラワン材)は、東南アジアのマレーシアより輸入し、留萌港の貯木場に入り、所定の手続きをおえたあと工場に引き取られます。  
最初はきめられた長さに切られ皮剥きと単板になる切削を行います。次に単板を乾燥し、表板と裏板とに分けられます。この作業は重要で表裏をまちがえるとコンクリートの固まりが悪くなります。次に単板5枚をのり付けする作業ですが熟練を要する作業で中板の選別を流れ作業の中で見分け、フシなどのある単板を取りのぞく作業で、見おとすと後で密着した合板にならないからです。  
最後にプレス(圧縮)し、規定の寸法にカットし合板となり120枚で1組として消費地に搬入されます。  
二ヘイの合板は、非常に評判がよく、現在は全道シェア25%を占めています。  
将来は40%を目指し、会社と、従業員が一体となって、頑張っています。